



大学入学者選抜における CBT の活用の推進に向けた
連携協力に関する協定
キックオフシンポジウム

CBT が拓く 大学入学者選抜の 新たな地平

大学が自ら運用できる
CBT の新しい枠組みを目指して

2024.8.21 水

13:00 ~ 16:00

Zoom ウェビナー配信 | 定員 400 名

※ 定員となり次第、受付終了とさせていただきます。

シンポジウムの詳細は、次のページをご覧ください



参加申込

8月6日(火)までに
申込フォームから
お申し込みください。
[https://forms.gle/PtN
Hws3LMmSKMLPF8](https://forms.gle/PtNHWs3LMmSKMLPF8)

主催

独立行政法人大学入試センター

共催

神田外語大学
国立大学法人佐賀大学
国立大学法人電気通信大学

お問合せ先

大学入試センター 試験企画部試験企画課

✉ info_cbt@cen.dnc.ac.jp

8月16日以降、事務局からウェビナー
情報と当日資料のダウンロードリンクを
お送りいたします。

シンポジウムの趣旨

神田外語大学・佐賀大学・電気通信大学と大学入試センターはこのたび、「大学入学者選抜におけるCBTの活用の推進に向けた連携協力に関する協定」（以下、CBT活用連携協定）を締結いたしました。CBTを入学者選抜にいち早く取り入れた連携大学と大学入試センターが手を携え、CBTの安定化と普及、さらにはCBTの活用を通じた新しい入学者選抜制度の構想という「新たな地平」をめざします。

CBT活用連携協定では、CBTの実施・運営に関するノウハウを共有しながら、これから新たにCBTを導入したいと考える大学のガイドとなる資料を作成し、公表していきます。また、複数の大学が協力してはじめて実施できるCBTのあり方を具体的に議論し、実務面を含めた課題整理や地に足のついた工程表づくりなどにも取り組む予定です。

本シンポジウムでは、CBT活用連携協定の船出を機に、あらためて連携大学におけるCBTの現況を理解しながら、個々の連携大学が抱える課題を「個々の大学に特有の課題」と「複数の大学が共同して取り組むべき課題」に整理します。そのうえで、後者の課題にCBT活用連携協定としてどのように取り組むことがよいのか、大学入学者選抜の将来像に照らして複数の大学がいつそう協働するための仕組みをどのように構築するのか、示唆を得ます。

プログラム

- 13:00～13:10 **大学入試センター 理事長挨拶**
山口 宏樹 独立行政法人大学入試センター 理事長
- 13:10～13:40 **基調講演**
「現代の大学入学者選抜を取り巻く課題の全体像とCBTの活用可能性
—少子化、多面的・総合的評価、CBT—
川嶋 太津夫 大阪大学 スチューデント・ライフサイクルサポートセンター長／特任教授
- 13:40～14:00 **CBT活用連携の目的と具体的な活動内容について**
寺尾 尚大 独立行政法人大学入試センター 研究開発部 准教授
- 14:00～15:00 **連携大学におけるCBTの現況と課題・連携への期待**
「CBT実践の7年間—成果と課題、そして展望—」
西郡 大 佐賀大学 アドミッションセンター長
「世界標準を満たす電気通信大学のCBT入試」
植野 真臣 電気通信大学大学院 情報理工学研究科 教授
「コロナ禍で実施のオンライン入試を振り返って—課題と今後への期待—」
長田 厚樹 神田外語大学 事務局長補佐
休憩(10分)
- 15:10～16:00 **指定討論・パネルディスカッション**

パネリスト	西郡 大・植野 真臣・長田 厚樹
指定討論	川嶋 太津夫
司会	寺尾 尚大

連携大学のこれまでのCBTに関する実績や検討状況



神田外語大学（私立）

新型コロナウイルス感染症対策として、令和3年度選抜で遠隔型CBTを実施。オンライン試験で入学した学生へのアンケートを実施し、受験環境等に関する意見を取りまとめた。その後、小規模の留学生選抜で遠隔型CBTを継続。



佐賀大学（国立）

平成30年度選抜から、誤答した問題を再解答できる「基礎学力・学習力テスト」、翌年度から動画等を用いた「思考力・判断力・表現力を問うテスト」、「英語技能テスト」を開発。大学試験場型CBTで、講義室にタブレットを配付し実施（総合型選抜・学校推薦型選抜等）。



電気通信大学（国立）

令和7年度選抜から、総合型選抜・学校推薦型選抜で教科「情報」を中心とした大学試験場型CBTを実施予定。国際技術標準に準拠。基礎学力の程度を合否判定に利用し、入学後のCBT学力検定とデータ連携させて教育改善に活用。